

全国棚田 [千枚田] サミットの概要

とき 平成 16 年 9 月 3～4 日 ところ 佐賀県相知町(蕨野の棚田)
サミット 10 年

日本の「農」と「食」を見直そう！棚田からの提案

9 月 3 日

総会・首長会議

・地元選出の国会議員等の挨拶に続き、来賓として出席した農水省担当官から中山間地域等直接支払制度の継続に向け、財務省に折衝中である。厳しいが頑張ると約束される。これを踏まえ、意見交換の場で棚田連絡協議会に於いても継続を再度、嘆願することに決まる。

- ・第 10 回全国棚田サミット共同宣言(案)可決
- ・第 12 回(2006 年)開催地は宮崎県日南市が承認される
- ・特別講演 佐賀県知事(昭和 33 年生まれ。全国で最年少知事として活躍)人の手から手へ、幾年もの時を越えて～今・未来に活かす「棚田」～

知事は棚田の保全に力を注ぐ「現場」好き。自宅でも棚田米を食べている。知事の人柄に魅了され、近隣からも大勢の人達が講演を聴きに訪れ、会場は満杯の盛況であった。

- ・蕨野の棚田ミニウォーク

蕨野の棚田は 40ha、1,050 枚の水田を 51 戸で耕作されている。

棚田米をブランド米として注目をあつめ、収穫米が全て完売されている。

注・「蕨野米」は地元で組織する蕨野棚田保存会 (H15 作付け面積 13.6ha 収穫量 37t 1kg 600 円 11 月には完売)で生産・出荷を行っている。

魅力・生活排水が田んぼにまったく入らない事。トイレ、休息場(展望台を除く)が田んぼのいちばん下方に作られている等、環境に配慮されている。

9 月 4 日

分科会 ー全員が分科会に参加、それぞれの分野で知見を得たー

- 第 1 分科会 棚田サミット 10 年～サミットの軌跡と展望～
- 第 2 分科会 棚田米の販売戦略を考える
- 第 3 分科会 棚田での資源循環型農業とフィールド教育
- 第 4 分科会 棚田と景観～石積み的美、土坡の美～
- 第 5 分科会 棚田発・農業観の転換

事例発表

- ・相知小学校 5 年生による棚田学習～田んぼの学校報告～また、5 年生みんなで作詞した「なただのうた」の発表があった。
- ・佐賀大学農学部「手間講隊」の活動 遊休農地の復田と環境保全型農業・有機農業の実験、実習等の利活用を行う学生を中心とした棚田援農隊の活動状況。

交流会

全国からのサミット参加者全員が一堂に会し、盛大に懇親会が行われた。懇親会は地元スタッフの手厚いもてなしを受け、鳳来町から参加した全員も次期開催地のアピールを遺憾なく発揮した。

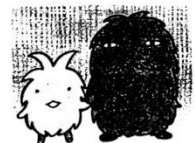


四谷の

千枚田だより

第 13 号

向きむきに 猿橋架あがる 千枚田
四谷 青風
千枚田の 実りの色をみたり
四谷 志子
明日は日和か 大夕焼が



愛・地球博
AXPO
2005 AICHI
JAPAN



棚田サミット
2005 鳳来町
四谷千枚田

サミット意見交換会

九月十一日、連谷会館に於いて地区からのサミット参加者による意見交換会が、それぞれの見聞してきたことを基に行われました。

《概略》

▽鳳来町実行委員会の早期設立が必要。―中心的な組織がない中では、地元行事の検討が出来ない。

▽サミットの分科会のあり方、実施内容の再考をお願いしたい。―参加耕作者の意見交換の場を望む。分科会の設定時間を減らしても、現地で交流的な行事を行いたい。

▽現地交流での接待における品物の検討。―売店の会が中心になって検討する。

▽千枚田でのアトラクションの検討。―蕨野のオカリナの歓迎に感激した

▽交流会でのアトラクション。―地元盆行事の「はね

こみ」ははずせない。

▽環境整備事業の一環としての鳥獣対策の必要性。

―イノシシ対策に錆びた波トタンは全国から訪れる人達に恥ずかしい。対策委員会設置による鳳来町への助成の働きかけが必要。等々活発な意見が出されました。

蕨野の棚田、相知町の皆さん素晴らしいサミットありがとうございました。

四谷の千枚田、鳳来町も来年は頑張ります。

棚田の中の一本足の案山子

連谷小学校(十八名)では秋の収穫前に各家庭から持ち寄った古着や帽子などを使い、思い思いの案山子作りに親子で挑戦しました。

一人一体の「かかしさんたち」は九日に田んぼに立てられ、黄金色の千枚田でスズメやイノシシを追い払っています。また、訪れた人々を歓迎しています。



こどもタイムス

中日新聞のわくわく体験「四谷千枚田で棚田の歴史を聞こう」と題して豆記者六名と父兄が九月二十五日に千枚田の取材に訪れます。(掲載日は十月十日)

(小山舜二対応)

東海水土里フォーラム

東海農政局主催による百万都市シンポジウムが十月十一日(月)、名古屋市教育センター(八百六十人収容)で行われます。ねらいは

都市住民や子供達に農村の持つ様々な魅力や役割を紹介し、農村に親しみを持つ心を育む、農村を訪れたい、農村で楽しみたい、そんな農村ファンが増えることを目的にシンポジウムが開かれます。

当日は小学生によるミニコンサート、地域の自然環境や歴史などに関する発表会、また、農村に関するパネルディスカッションなどがあります。このシンポジウムにパネラーとして千枚田保存会の小山舜二が出席します。(コーディネーター 中日新聞論説委員 飯尾 歩氏・パネリスト 俳優菅原文太氏 他五名)

新会員の紹介

小山柳二さんが新会員になりました。柳二さんは四谷の生まれで名古屋在住ですが、ふる里の千枚田に魅せられ、田んぼを耕しながら

棚田の四季折々の風景を版画にしたり、土人形に興じたり、仲々の芸術家です。



湧き水

▽稲刈り真つ最中。今年はずまず出来がよい。十六号台風でよろけた稲の蝶々結びは可愛らしいが、刈るのに大変だ。

―いちいちほどこにやアならんでのん…

▽街から来た人は勝手がいい。彼岸花の咲くのが早かったのだ、遅かったのだと。―ちようど見頃の時にくりやアいいだのん…

行 平成十六年九月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文責 小山舜二